

インターバンクの声（2015 年 10 月 15 日）

どうにも各国の低調な経済指標の発表が止まらない。火曜日の貿易収支に続いて昨日発表された消費者物価も弱かった中国の数字は多少覚悟していたが、米国の小売売上高や生産者物価指数があれほど予想を下回るとは思わなかった。昨日の日中、ディーラー仲間とも「当分はドル円の取引も 119 円でドル買い、120 円 50 銭でドル売りを繰り返しておけば問題なし」などと話していたが、得てしてそういう時に限って相場は壊れるものだ。119 円を割り込んだといってもまだ 118 円中盤で止まっているが、小売大手のウォールマートや金融大手の決算も予想を大きく下回り、ニューヨーク市場は株安、金利低下、ドル安の一日となった。見方によっては、よく 118 円中盤でドルが下げ止まっているとも言えそうだ。東京時間で日経平均や上海株が続落となり、今晚の米国の消費者物価指数やフィラデルフィア連銀景況指数なども低下するようなことがあれば、我慢してドルを買い持ちにしている投資家の一部も一回ポジションをフラットにするかも知れない。2 週間後の米連邦公開市場委員会 (FOMC) での利上げなしとの見方がますます増えそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。